

令和5年度
事業報告書

社会福祉法人 札幌厚生会
救護施設 札幌市あけぼの荘

令和5年度事業報告書 目次

総 括	1
I. 利用者支援の充実	3
1. 自己実現と個別支援体制の充実	
2. 人権を尊重した支援の推進	
3. 包括的基幹相談窓口の体制構築と循環型施設機能の推進、生活困窮者自立支援機能の推進	
4. 利用者主体の生活支援	
5. 生きがい活動の充実	
6. 作業活動の充実	
7. 地域活動の推進	
8. ホームレス緊急入所事業の推進	
9. 一時入所受入れの推進	
II. 健康支援と感染予防	8
1. 健康状態の把握と健康相談の充実	
2. 健康診断の実施	
3. 回診の実施	
4. 服薬の管理と誤薬防止	
5. 怪我（転倒）の防止と誤嚥予防	
6. 感染症の予防	
7. 病院受診・通院・入退院の対応	
8. 緊急時の対応	
別紙 月別通院状況	
III. 食の向上と栄養管理	11
1. 栄養の管理	
2. 特別食の対応	
3. 豊かな食事の提供	
4. 非常時の対応	
5. 食品衛生と調理従事者の衛生管理の徹底	
6. 給食単価と平均栄養所要量	
別紙 給食状況調	
IV. 施設経営の新たな取り組みと機能強化	15
1. 新たな時代に向けた取り組み	
2. 運営体制の適正化	
3. 職員の専門性の向上	
4. 苦情解決に向けた取り組み	
5. 地域との連携	
6. 広報活動の充実と情報公開の取り組み	
V. 施設の安全管理と環境整備	17
1. 施設の防災管理	
2. 施設設備の修繕・保守・点検	
3. 施設内の清掃・美化	
別 表	18
別表1 入所状況・ 別表2 職員配置状況	

令和 5 年度事業報告

■総 括

はじめに

令和 5 年度は、当施設の今後の展望を見据えたうえで、大きく転換した 1 年であった。札幌市の指定管理者としての新たな期間が始まることを節目として、定員をこれまでの 90 名から 75 名へと変更し、更に長年の懸案事項であった、居室環境の改善も行うことができた。

居室環境を改善したことでプライベート空間が生まれ、常に同室者を意識した生活から、それぞれの考え方や時間の使い方を意識した生活へと、少しずつ変化しつつある。今後は更に個別化に向けた支援を推進していきたい。その一方、利用者定員の変更に伴い職員定数も減少することから、いかに効率的な支援体制を構築していくかを模索してきた。フロアごとの担当制を廃止し、より包括的な視野で支援を行うものとし、すれ違いの勤務となりがちな支援員同士が、相互に連絡を伝達できる仕組みを策定した。この支援体制のありかたについては、今後も継続して吟味していく。

財政的な観点や、安定的な人材確保の観点から、給食業務の外部委託を検討してきた。委託費の多寡のみならず、これまでの直営提供による良さを継続しつつ、持続可能な供給体制であることなど総合的な見地から判断し、委託業者を選定した。

利用者確保については、年度当初予定した 77 名を上回り安定した収支決算とすることができた。入所ニーズの多くが短期入所に変化してきていることを踏まえ、柔軟な受け入れを行ってきたことが奏功した。しかしながら、これまでの累計在籍者数からは漸減してきていることや、救護施設の存在や支援内容がまだまだ社会に認知されていない実態であることから、今後も継続的な周知活動をしていかなければならない。

年度末には、再び施設内コロナクラスターが発生した。これまでの教訓を生かした体制をとり拡大防止に努めたが、一定期間の日課を停止せざるを得なかった。これについては今後も起こり得るものと捉え、予防と従前の日常生活とのバランスを考慮した生活環境を提供していきたい。

■重点目標

1. 新指定管理期間における居室環境改善と支援体制の基盤づくり

札幌市との連携のもと、今後の施設のありかたを見据え、定員の変更と居室改修工事を行った。また、それに合わせ支援員の配置見直しを行った。各フロアの担当制を廃止し、利用者様の担当を正副 2 名体制とすることで、出来るだけ途切れ目のない支援体制とすることに努めた。新たな試みであることから、課題点もあ

り、次年度以降にも検討を重ねていくこととした。

2. 利用者確保に向けた取り組み

今年度は、急性期病院や、相談支援事業所等への周知活動を行った。やはり救護施設の機能が旧来のまま認識されているケースが多く、まだまだ周知が必要である。以前より即応的な受け入れを行ってきていることや、地域移行支援も行っていることなどを地道に周知していく必要がある。

3. 利用者支援のありかた見直し

近年、利用者本人がもつエンパワメントの視点を大切に、「支援しすぎない支援」をスローガンに支援を行ってきている。一人ひとりがもつ将来に対する希望要望を「個別支援計画」に落とし込み、その計画に沿った支援を行ってきた。

地域生活への移行を希望する方を対象とした「居宅生活訓練事業」を継続的に実施した。2名枠のうち1名が地域移行を果たし、1名が就労することができ、実施機関と調整の上、近い将来自立に向け展望するに至った。

4. 感染症や大規模災害に向けた対策

出来るだけ制限のない生活と感染対策とのバランスを勘案しながら日常生活支援を行ってきたが、年度末には再びコロナクラスターが発生した。今後も感染症や大規模災害の発生は避けられないものとし、BCP（事業継続計画）を策定した。今後は、これに基づく予防と有事の際の対応に努めていく。

5. 安全で満足度の高い給食の提供

これまで、当施設直営にて安全で満足度の高い食事の提供を行ってきたが、財政面や人材確保面において、将来にわたり持続可能な給食提供のかたちを検討し、外部委託業者への移行を決定した。次年度からの実施にあっては、これまで以上に満足度の高い食事提供に努めていく。

6. 職員処遇の見直し

法人共通課題として取り組んできた、人材確保・育成の仕組みづくりに合わせ、将来を見据えた、人事・給与制度の見直しについて検討してきた。他法人や他業種との水準比較や、当法人の財務状況を勘案しつつ、新たに加わる採用者や、既存の職員にとってモチベーションが向上し得る仕組みづくりを模索してきた。

次年度以降の改正実施に向けて引き続き検討していく。

I. 利用者支援の充実

個別支援計画を基とし、希望要望から利用者様が望む生活の実現と、個人の自主性を尊重し、支援し過ぎない生活支援に努めた。

1. 自己実現と個別支援体制の充実

① 個別支援計画実施体制の充実

ケース会議の開催

- ・ 前回の見直しから、支援計画の達成状況を確認し、継続した支援が可能か、または見直さなければならない状況かを各部署で話し合い、現状にあった計画に修正を行いながら支援に努めてきた。支援目標に関しては、複数立てることが利用者様の負担となってしまうのではないかと考え、目標を絞り、より厚い支援となるよう努めた。

延べ開催回数 71回

2. 人権を尊重した支援の推進

① 人権擁護委員会の開催

- ・ 前年度で利用者様の生活環境の見直しが概ね終了したことから、新たに検討を要する問題が生じた場合は、支援会議内で見直しを行うようにした。新たな規則にも慣れ、利用者様も落ち着いた生活だったと感じる1年だった。今年度は制限させていただいている食べ物に関して検討し、当面現状維持としたが、今後も改めて検討の機会を設けることとする。また、自立した生活となるよう、生活環境の検討していく。

検討会開催 3回

3. 包括的基幹相談窓口の体制構築と循環型施設機能の推進、生活困窮者自立支援機能の推進

① 札幌市を対象とした「基幹相談窓口」としての機能

- ・ 当施設を窓口とすることに関しては、目に見えた成果を感じる事ができなかったが、市内各区からの依頼に対し、迅速な対応で断らない受け入れが出来た。法人内救護施設と連携した、ツールを活用し、受け入れ態勢の調整を行うことができた。

② 施設と地域社会資源との連携強化

- ・ 今年度も新型コロナウイルス感染症の影響もあり、スポット的な訪問活動は行ったが、定期的実施には至らなかった。新規入所の面談の際には関係機関への訪問し、連携を図った。

③ 生活困窮者自立支援事業の実施（地域公益的事業）

- ・ 認定就労訓練事業（中間的就労）として保護課の依頼により、今年度は1名の訓練参加者を受け入れた。訓練途中施設内でのコロナ感染が蔓延したことで、期間を短縮して行った。

4. 利用者主体の生活支援

① 支援体制の改善

- ・ 福祉見聞録導入による情報管理体制の充実
- ・ 自立された方に対し、常に入浴（シャワー浴）が出来るよう入浴日を設定した。

② 意見反映

ア. 意見交換会（隔月実施）

イ. 全体集会

10月、1月、3月のみ今年度より食堂にて実施した。

③ 自主的活動の促進

- ・ 各種体操への参加（毎日実施～ラジオ体操、リズム体操）

・職員が同行する個別外出支援

買い物	食事	図書館	家族との交流	墓参り	合計
3回	0回	0回	1回	1回	5回

④ 家族等との交流支援

ア. 家族等との交流状況

・面会の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
面会者数	7	6	7	8	8	8
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
面会者数	6	7	4	4	0	1

*延べ面会者数 66名

・外出の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
外出者数	1	4	0	3	4	0
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
外出者数	1	4	0	0	0	0

*延べ外出者数 17名

・外泊の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
外泊者数	0	1	1	0	2	1
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
外泊者数	1	1	4	0	0	1

*延べ外泊者数 12名

イ. 機関紙「みちしば」の家族様への送付

・発行回数：年2回

・送付部数：36部／1回

5. 生きがい活動の充実

① クラブ活動の実施

今年度も新型コロナウイルス感染対策により、ボランティアの受入れを中止とした。

クラブ名	実施回数	参加延人数	実施内容
書道クラブ	11回	131人	季節や行事に合わせた文字や好きな言葉を書き、日常的に掲示した。また、利用者様全体に呼びかけ七夕の短冊作りを行った。
自遊クラブ	11回	176人	活動内容は様々で、ぬり絵、風船バレー、DVD鑑賞、カラオケ、季節の作品作り等を楽しく行った。
手芸クラブ	10回	112人	1人1人の個性を生かし「出来る事」を主体として、刺し子、スクラッチアート、小物に飾り付け等の作品づくりを行った。

② レク活動の実施

ア. グループレクの実施

実施日	内 容	参加者	実施日	内 容	参加者
4月26日	出前1班	6名	8月23日	100均3班	7名
5月18日	100均1班	8名	9月7日	出前5班	5名

5月31日	出前2班	4名	10月12日	出前6班	5名
6月15日	出前3班	8名	11月16日	出前7班	5名
6月21日	100均2班	5名			
7月13日	出前4班	8名			

イ. 買物レクの実施（コロナ禍にあっても、利用者ニーズが高かった買い物については、予防・消毒を徹底した上で実施した）

・実施日

1班	4月18日	2班	5月16日	3班	5月23日
4班	6月8日	5班	6月14日	6班	6月28日
7班	7月20日	8班	7月26日	9班	8月30日
10班	8月31日	11班	9月28日	12班	10月19日

・行 先 しまむら苗穂店 アペイル苗穂店 プロノ南郷店

・参加者

1班	4名	2班	6名	3班	4名
4班	7名	5班	4名	6班	4名
7班	5名	8班	5名	9班	4名
10班	5名	11班	5名	12班	6名

合計 59名

ウ. その他施設行事

実施日	行事名	内 容	備 考
4月 1日	新担当顔合わせ	新規居室メンバーと担当支援員との顔合わせを行った	
4 月 中 旬	合同カラオケ交流会	新型コロナウイルス感染対策により中止	
5月10日	第61回開設記念	施設内にて利用者様とご家族様のみで実施した	
8 月 9日	夏祭り	施設内にて利用者様のみで実施した	
8 月 中 旬	物故者盂蘭盆会法要	新型コロナウイルス感染対策により中止	
9 月 初 旬	スポーツ交流会	新型コロナウイルス感染対策により中止	
9月14日	敬老会	お祝い品を贈呈し、長寿のお祝いを利用者様と共に行った	
12月14日	もちつき	「よかさろん」にて、もちつきを行った	
12月21日	クリスマス会	クリスマス会食を行った	
12月30日	年越し会食	年越しの会食を行った	
1月23日	勉強会	認知症についてDVDで上映した	全員
2 月 1日	節分の豆まき	年男、年女の方に施設内を回って頂き、豆まきを行った	対象者 3名

6. 作業活動の充実

① 作業実績

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施延べ日数 (日)	9	7	10	8	10	7	7	8	10	8	1	0	85
参加延べ人員 (人)	280	202	281	252	287	231	199	221	267	197	28	0	2,445
1日平均参加 人員(人)	31	28	28	32	29	33	28	28	27	25	28	0	29
箸作業実績 (本)	90,000	70,000	100,000	80,000	104,000	100,000	60,000	105,000	134,000	80,000	20,000	0	943,000
箸作業金 (円)	13,500	10,500	15,000	12,000	15,600	15,000	9,000	15,750	20,100	12,000	3,000	0	141,450
その他作業 実績(部)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他作業 報奨金(円)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
報奨金総額 (円)	13,500	10,500	15,000	12,000	15,600	15,000	9,000	15,750	20,100	12,000	3,000	0	141,450

② 作業内容

- ・お弁当用箸セット製作作業

③ 作業報奨金の支給

- ・偶数月に当該月の前2ヶ月分の作業参加回数を集計し、その出席回数と当該月の収益金を基礎とした計算により、作業報奨金を個々に支給した。
- ・令和5年度作業報奨金総額 141,450円

7. 地域活動の推進

いずれも新型コロナウイルス感染症対策により中止した。

- ① 地域清掃の実施
- ② 地域交流の実施

8. ホームレス緊急入所事業の推進

国の緊急的施策（一時見守り支援事業）により、施設近隣のアパートを3室借り上げ、経路不明者の隔離対応場所として受け入れを行った。

ア. 月別入所者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入所	1	1	1	1	2	0	1	2	1	0	0	0	10

*平均入所日数 51.4日 最短 21日 最長 163日

イ. 年齢別入所者数

(内訳)	30歳未満 2名 16.8%	30～39歳 1名 8.3%	40～49歳 0名 0%	50～59歳 4名 33.3%	60～69歳 1名 8.3%	70歳以上 4名 33.3%
------	----------------------	----------------------	--------------------	-----------------------	----------------------	----------------------

*平均年齢 54歳 最年少 22歳 最高齢 74歳

ウ. 月別退所者数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
居宅保護	2	2	0	1	1	1	1	0	1	0	0	0	9
入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1

9. 一時入所受入れの推進

ア. 一時入所利用者数（一般入所前の体験的入所は除く） 4 名

イ. 退所先 居宅 3 名 その他 2 名 正式入所

Ⅱ. 健康支援と感染予防

利用者様一人ひとりの安心と健康の保持、残存機能の維持を図りながら、嘱託医の指示の下、以下のことを行った。新型コロナの影響下の中、感染症対策に努めた。しかしながら、今年度も施設内クラスターとなったことから、約1か月間通常の日課をストップし、拡大防止の措置を講じた。

1. 健康状態の把握と健康相談の充実

日常の小さな変化や悩みのサインを見逃さないよう観察を密に行い、利用者様の主体性や意思を尊重した（健康相談「話楽」）支援に努めた。

① 「話楽」の実施

・誕生月の方・新規入所の方へ個別に悩みや不安に思うことの聞き取りを行った。 延べ人数3名

② 延命意思確認の実施

・誕生月に年1回、新規入所の方へ延命希望の有無確認を行った。 実施人数3名
また、生活支援記録システムを活用し、医務的記録を職員間で情報共有出来るよう努めた。

2. 健康診断の実施

① 定期検診

検診名	実施日	実施機関名	受診者	要精検者
胃 癌 検 診	4 月 6 日	北海道対がん協会	11名	1名
大 腸 癌 検 診	4 月 6 日	北海道対がん協会	52名	0名
胸 部 検 診	4 月 6 日	北海道対がん協会	35名	1名
子 宮 癌 検 診	3 月 21 日	北海道対がん協会	5名	0名
乳 癌 検 診	3 月 21 日	北海道対がん協会	5名	0名

※ 要精検者については、嘱託医の指示により再検査を実施した。

② 施設内健康チェック

ア. 体重・血圧測定の実施

・毎月 男性・女性別に1回測定実施

イ. 検血・検尿の実施（対象者のみ）

・3班に分け年2回実施

③ 入所時健診

必要に応じ適宜実施した。

④ 個別検査

嘱託医、主治医の指示を受け、胸部レントゲン・CT、頭部CT、心電図、胸部・頸部エコー、血液、尿検査を実施した。

3. 回診の実施

回診や通院を受診した。月別患者数は別紙のとおり。

4. 服薬の管理と誤薬防止

自己管理が難しい方（現在53名）については医務管理とし、食事後や就寝時に支援員と連携し服薬確認を行った。また自己管理が出来る方についても、定期的に残薬のチェックを行い服薬の安全に努めた。誤薬の発生を出来るだけ最小限にとどめるべくヒヤリハット委員会を通じ検証を行った。

5. 怪我（転倒）の防止と誤嚥予防

ア. ラジオ体操、リズム体操、DVDによる機能体操の実施（身体機能・嚥下機能・認知機能）

- イ、歯科往診時に必要な方へ義歯装着方法や歯磨き方法等について指導した。又、義歯の不具合など支援員と連絡を密にとりながら歯科治療につなげた。
- ウ、昼食前に対象者向けに嚥下体操を行った。

嚥下体操月別実施回数及び参加者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実施回数	7回	10回	5回	7回	8回	3回
参加者数(延人数)	75名	119名	66名	86名	105名	35名
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実施回数	0回	6回	8回	2回	3回	0回
参加者数(延人数)	0名	65名	94名	25名	34名	0名

合計：59回 704名

6. 感染症の予防

ア、インフルエンザ予防接種の実施

- ・利用者様及び職員を対象に実施した。

イ、新型コロナ予防接種の実施

- ・ワクチン接種券が届いた順に希望利用者様に実施した。

ウ、手洗い・うがいの徹底

- ・日常の手洗い・うがいの徹底のほか、通院等の外出後の手洗い・うがいを徹底するなど、感染症の予防に努めた。
- ・食堂、玄関、各階洗面所に手指消毒剤を設置し、消毒の徹底をした。

エ、除菌の徹底

- ・施設内の除菌（通年1日2回）を実施した。
- ・換気（午前、午後2回）を全職員で実施した。各居室において利用者様にも協力をしてもらい昼食時間に合わせ換気を促し実施した。

オ、コロナウイルス対策の実施

- ・体調管理（体温測定・風邪症状の有無）
- ・隔離体制（緊急・一時入所者様も含む）を採り、PPE（個人防護具）、アルコール消毒液等必要物品を調達した。
- ・全職員のマスク着用、利用者様の外出制限を適宜実施した。
- ・健康診断や通院時のマスク着用（職員・利用者様）
- ・食堂テーブル中央にアクリル板を設置し、1日1回消毒を実施した。
- ・回診及び往診に来る医療者（他の入館者も同様）の出入口玄関は1か所とし入館前に検温・手指消毒の協力依頼した。
- ・新型コロナ罹患者が出た際、回診・往診の調整を医療機関へ連絡した。

7. 病院受診・通院・入退院の対応

- ・単独通院出来ない方や、新型コロナ対策で公共交通機関を使用できない方の通院送迎を行った。（相談員と調整）
- ・通院者の受診に対し新型コロナの対策として通院日の調整を行った。

8. 緊急時の対応

のどづめ、転倒事故による怪我、意識障害などの事態に対し職員全員が初期対応を行えるよう努めた。

- ・「事故発生時の対応」マニュアルを基に新規職員へ説明を行った。

月 別 通 院 状 況

延人員(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
内科	施設外	8	5	12	5	7	2	13	5	1	8	4	4	74
	施設内	22	10	24	22	10	22	23	25	21	20	22	22	243
精神科	施設外	2	6	3	3	1	8	1	0	3	3	1	6	37
	施設内	0	0	19	16	9	0	0	0	0	15	16	13	88
外科	施設外	6	3	5	3	2	4	4	4	2	1	1	3	38
	施設内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
皮膚科	施設外	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	3
	施設内	9	10	8	8	9	0	0	0	9	10	10	9	82
歯科	施設外	6	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12
	施設内	2	1	22	14	6	0	14	16	17	11	4	10	117
婦人科	施設外	0	2	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	5
	施設内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
整形外科	施設外	1	3	0	2	3	5	0	0	1	4	2	1	22
	施設内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼科	施設外	1	4	7	5	5	4	3	3	5	2	3	3	45
	施設内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳鼻咽喉科	施設外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	2	5
	施設内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科	施設外	2	1	3	0	3	2	3	1	2	0	2	0	19
	施設内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
呼吸器科	施設外	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	施設内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受診者数	施設外	26	27	35	19	21	25	24	14	15	20	15	20	261
	施設内	33	21	73	60	34	22	37	41	47	56	52	54	530
	合 計	59	48	108	79	55	47	61	55	62	76	67	74	791

Ⅲ. 食の向上と栄養管理

健康で生きがいのある生活を送っていただくため、利用者様個々に合った安全で満足度の高い食事の提供に努めた。食事摂取基準2020年版を運用した献立作成を行った。

1. 栄養の管理

身体状況・生活状況を把握し、個々の健康・栄養状況に応じた栄養管理の徹底を図った。また、生活習慣病の予防と重度化防止など、健康の維持・向上に努めた。

- ① 献立表の作成
- ② 個別栄養管理

2. 特別食の対応

利用者様個々の疾病等を考慮し、特別食の対応を行った。

・マンナン食 ・エネルギー制限食 ・減塩食 ・アレルギー等による代替食

3. 豊かな食事の提供

毎日の食事が最大の楽しみとなるよう、季節を感じる食材や料理を盛り込み、変化に富む献立に努めた。より出来立ての料理を食べていただけるよう適温での提供と、食欲をそそるよう視覚や嗅覚など五感が満たされる豊かな食生活の提供に努めた。

ア. 選択食

回数	実施日	選択食の内容
1	4月19日	ドライカレー：カツサンド、やわらか福もちのお汁粉：エクレア
2	7月18日	タコライス：(冷)つけ麺・カレーラーメン、レモンシャーベット：水まんじゅう
3	11月21日	広東麺：チキンカツカレー、キャラメルケーキ：牛乳寒
4	2月14日	さんまの蒲焼丼：すき焼き丼、クリームブッセ：コーヒーゼリー

イ. パイキング食

・料理は簡易食器に小分けに盛り付けし、予めお膳にセットした状態で配膳した。おかわりについては、利用者様は着席したままで、職員がオーダー分の料理を座席まで運んだ。

・実施日 2月20日

・献立 白飯、バターチキンカレー、あんかけ焼きそば、ミニあんぱん、ミニクリームクロワッサン、から揚げ、豚肉のヤンニョム、白身魚のモルネソース、えびのマヨネーズ和え、茄子とトマトのミートグラタン、明太ポテトサラダ、いちごアイス風デザート、ミニおはぎ、ミニエクレア、お茶

ウ. お弁当献立

・実施日 ①10月26日

エ. 誕生会

・誕生月の利用者様から料理の希望を聞き、一番希望の多かった料理を毎月の誕生会に提供した。

オ. イベント食

◎開設記念日

・開設記念日に寿司、焼き鳥、飲み物などの献立で昼食を楽しんでいただいた。

◎うどんの選べるトッピング

・用意した8種類の天ぷらなどのトッピングの中から1人3品を選び、うどんにのせて食べていただいた。

・実施日 6月14日

・献立 かけうどん、選べるトッピング（えび天、かき揚げ、ささみ天、さつまいも天、法連草、かまぼこ、油揚げ、山菜、わかめ、牛肉甘辛煮）、イカ入りサラダ、ぶどう

◎夏祭り

- ・夏祭りには、焼きそば、お好み焼き、フランクフルト、カキ氷など出店風の献立で昼食を楽しんでいただいた。

◎あけぼのオータムフェスト

- ・『北海道・札幌の食』をテーマとした秋の味覚の祭典オータムフェストにちなみ、普段なかなか口にする事のない道内各地の旬の食材や、ご当地グルメを味わっていただいた。料理や、食材の紹介はもちろん、その土地の概要、名産や特産、出身有名人などについても写真付きで紹介した。
- ・実施日 ①9月12日 ②9月13日
- ・献立 ①オホーツク紋別ホワイトカレー（紋別）、かにかまサラダ、レアチーズプリン
②やきとり弁当（函館）、ほうれん草のごま和え、りんご

カ、クリスマス会食、年越し会食、おせち料理

◎クリスマス会食

- ・クリスマス会食では、ケチャップライス、ローストチキン、グラタンやテリーヌ、海老フライ、サーモンマリネなどクリスマスらしい内容でのオードブルやケーキを楽しんでいただいた。

◎年越し会食

- ・12月30日の年越し会食では、お弁当箱を用いて、えびと銀杏のおこわ、ザンギ、海老、旨煮、数の子、金平牛蒡、昆布巻き、栗きんとん、練り切りなど正月らしい料理を楽しんでいただいた。
- ・大晦日の夕食では、親子丼と年越しそばを楽しんでいただいた。

◎おせち料理

- ・元旦には朝食に伊達巻や黒豆などおせち五点盛り、昼食にはお赤飯や茶わん蒸し、夕食に刺身盛り合わせを楽しんでいただいた。

キ、季節食

- ・季節に合わせ、日本の文化に触れる行事食を提供した。
餅つき（雑煮） 冬至（冬至南瓜）
七草（七草粥） 節分（いなりとりのり巻き） ひな祭り（ちらし寿司、甘酒）

ク、祝日食

- ・祝日には、季節や家庭の温かみを感じていただくため行事食を提供した。

昭和の日（ちらし寿司）	憲法記念日（赤飯、刺身）	みどりの日（筍ごはん）
子供の日（鮭ちらし寿司）	海の日（いなり・のり巻き）	山の日（鶏めし）
敬老の日（赤飯、刺身）	秋分の日（三色おはぎ）	スポーツの日（栗御飯）
文化の日（鶏めし）	勤労感謝の日（鮭ちらし寿司）	成人の日（炊き込み御飯）
建国記念の日（ひじき御飯）	天皇誕生日（鉄火丼）	春分の日（三色おはぎ）

③ 利用者様の意見反映

- ・給食会議において、居室ごとに取りまとめた食事に対する意見、要望を利用者様の代表から聞き、給食に反映させた。
- ・嗜好調査の実施 調査時期 令和5年12月
調査対象 利用者様 68名

④ 嗜好品の支給形態

- ・個々の身体状況、喫食能力によりおやつの内容を2本化し、嚥下困難な方にも安心して食べていただけるよう努めた。（原則毎週木曜日支給）

- ⑤ 利用者様個々の状態に応じた自助食器、自助具の提供
- ・ 個々の状態に合わせ、自助食器・自助具を提供した。
 - ・ 自助食器・自助具を使用することで、安定した栄養摂取量の確保と自力摂取をサポートした。

4. 非常時の対応

- ① 非常食の備蓄
- ・ 災害時に備え、3日分の非常食を備蓄した。
 - ・ 備蓄品 御飯、野菜ジュース缶、フルーツ缶、飲料水、補助食など90名×3日
※飲料水においては実際の災害に備え、1日1人あたり2リットル程度の備蓄量を目指し段階的に増加した。
- ② マニュアルの活用
- ・ 万が一の災害発生時に、対応マニュアルに沿い、適切かつ迅速な対応を行えるよう、内容を更新した。

5. 食品衛生と調理従事者の衛生管理の徹底

- ・ 調理室内の除菌（1日2回 8：45、15：00に実施）
- ・ 調理室内の温度測定（1日2回 5：45、18：00に実施）
- ・ 冷蔵、冷凍庫の温度測定（1日2回 5：45、18：00に実施）
- ・ 水質検査の実施（1日2回 5：45、18：00に実施）
- ・ 原材料及び調理済み食品の検査用保存食の保存（2週間分）
- ・ 加熱調理済み食品の中心温度測定（加熱調理済み食品全てを測定）
- ・ 栄養士及び調理従事者の検便検査（月1回実施）
- ・ 調理従事者の個人衛生管理表による健康・衛生チェック（1日1回出勤時に実施）

6. 給食単価と平均栄養所要量

① 給食単価

下記単価により給食を提供した。

給食費	1人1日 1,004円
-----	-------------

③ 平均栄養所要量

別紙「給食状況調」による基準により給食を提供した。

給食状況調

	kcal	g	g	mg	mg	ビタミ				1人1日当たり 平均金額	食数
	エネルギー	蛋白質	脂質	カルシウム	鉄	A(μ g)	B1(mg)	B2(mg)	C(mg)		
令和5年4月	1,790	69.9	50.0	711	8.9	842	1.24	1.48	124	864	2,249
令和5年5月	1,795	70.8	49.6	704	8.7	797	1.24	1.46	114	938	2,284
令和5年6月	1,802	70.9	50.9	724	10.0	836	1.26	1.52	121	967	2,171
令和5年7月	1,803	71.9	50.3	719	8.7	847	1.30	1.49	132	891	2,256
令和5年8月	1,791	72.0	48.8	713	9.3	828	1.23	1.45	117	923	2,296
令和5年9月	1,798	70.6	49.1	718	8.6	783	1.27	1.45	115	963	2,249
令和5年10月	1,804	69.6	50.4	716	9.5	904	1.25	1.50	125	926	2,307
令和5年11月	1,804	70.0	49.5	697	9.4	830	1.27	1.45	120	924	2,211
令和5年12月	1,820	71.4	49.4	722	9.6	858	1.19	1.43	120	985	2,256
令和6年1月	1,806	69.0	50.9	702	9.7	829	1.23	1.47	125	943	2,222
令和6年2月	1,821	72.3	51.8	723	9.3	865	1.27	1.47	112	971	2,091
令和6年3月	1,768	67.4	41.6	726	8.4	865	0.81	1.24	55	1,491	2,158
合計	21,602	845.8	592.3	8,575	110.1	10,084	14.6	17.4	1,380	11,786	26,750
月平均 1人1日当たり	1,800	70.48	49.36	715	9.2	840	1.21	1.45	115	982	2,229

IV. 施設経営の新たな取り組みと機能強化

1. 新たな時代に向けた取り組み

継続的な施設経営のために、定員以上の利用人員確保を目指した。適切な生活環境の見直しによる居室改修を行ったことにより、今年度においては当初の見込み人員を確保でき、安定した収支状況であったことに加え、積立金の増額を図ることができた。

① 居室環境の大規模改修

- ・継続的な利用者様の確保（年間平均在籍人員実績77.3名、月別人員は別表1を参照）
- ・札幌市との共同による居室環境改善（2階居室）を行った。居室改修によるプライベート空間の確保を図った。

② 利用者充足にむけた救護施設の周知活動

- ・札幌市内病院相談窓口等へのPR活動を行った。居室改修工事完了が年度末まで要したため、居室環境が改善されたPR活動は次年度以降に持ち越した。

2. 運営体制の適正化

① 利用者在籍数の変化に合わせ、適切な職員配置と体制再構築

- ・支援員のチーム再構築（フロアごとの担当制の廃止）を行い、主任を中心とした新たな体制づくりに着手した。

② BCPの作成

- ・感染症対策用に次ぎ、大規模災害用を作成し、有機的活用となるよう職員周知を行った。

③ 記録業務の効率化・情報共有

- ・生活支援記録システムを活用し、医務的な日誌やヒヤリハット委員会の会議録作成など更なる活用の拡張を図った。

④ 定例会議・各種委員会活動の実施

- ・職員会議・給食会議・支援会議の開催：月1回
- ・苦情解決委員会：苦情等意見書7件
- ・ヒヤリハット委員会の開催：検討事項に対して不定期の開催とし、適宜対応した。

ヒヤリハット報告

《年間分類別事象数》

投薬	転倒・転落	食事・誤嚥	無断外出	設備	防災	外出先	外部	忘れ	勘違い	その他	合計
30	50	8	1							41	130

3. 職員の専門性の向上

① 職員体制と専門性の強化

- ・加算制度の利用：救護施設職員配置基準に基づく適正な職員配置に加え、加算制度を利用した職員配置を行った。

（介護職員1名、看護師1名）

- ・外部団体研修会への参加：対面式、及びZOOM、動画配信による各種研修会へ参加した。
- ・施設内研修の実施
伝達研修を企画したが、コロナクラスターにより開催は見合わせた。

4. 苦情解決に向けた取り組み

- ・苦情受付件数 7件～利用者間の関係性、職員に対する不満、職員と利用者様との情報共有に関する要望について

5. 地域との連携

- ・施設行事への参加呼びかけ（施設行事の協力として専門学校へボランティアの依頼をした）
- ・会議室の開放（開放件数：0回）
- ・福祉除雪事業への参加（当施設出動実績：4回）

6. 広報活動の充実と情報公開の取り組み

① 広報活動の充実

- ・新規利用に結びつきやすくなるよう、ホームページを一部見直しする予定であったが、次年度に持ち越した。
- ・広報誌「みちしば」の発行
- ・発行部数 100部
- ・配布先 ご家族・関係機関
- ・発行内容

号 数	発行日	発 行 内 容
162号	4月15日	年間行事予定表、新人職員紹介、クリスマス会、コロナ施設内感染等
163号	10月15日	開設記念 夏祭り、敬老会、支援員の取り組み等

② 情報公開

- ・ホームページにおいて施設概要、事業報告書及び決算収支状況を開示した。
- ・定期的に更新し日常生活のようす等をお伝えした。

V. 施設の安全管理と環境整備

1. 施設の防災管理

日頃より施設周辺の可燃物の整理整頓等防火活動に努めた。

- ・消防法に基づく総合訓練の実施

実 施 月 日	想 定	訓 練 内 容	参 加 者
5 月 3 0 日	夜 間	総合訓練（消火訓練・避難訓練）	3 名
1 0 月 2 4 日	夜 間	部分訓練（消火訓練・避難訓練）	3 名

- ・避難訓練に参加した職員を対象として、消防設備の使用法やスプリンクラー設備について研修を実施した。
- ・緊急時の職員連絡体制をより定着させるため、「らくらく連絡網」を活用した業務連絡を行った。

2. 施設設備の修繕・保守・点検

各種機器の維持管理及び、経年による建物の劣化による修繕を実施した。

今年度においては居室環境整備のための改修工事や、給湯一次配管の修繕等を行った。設備の定例保守は以下のとおり行った。

- ・消防用設備の点検（年2回～専門業者／自主点検：毎月）
- ・自家用電気工作物（キュービクル）の点検（毎月～専門業者）
- ・エレベーターの保守点検（毎月～専門業者）
- ・温水ボイラーの保守点検（4月・11月～専門業者）
- ・受水槽・貯湯槽の清掃保守及び水質検査（2月～専門業者）
- ・機械警備の保守点検（毎月～専門業者）
- ・浴槽配管洗浄（8月～専門業者）

3. 施設内の清掃・美化

居住環境の清潔保持と施設内感染の予防に努めた。

- ・館内床美装（食堂：年4回その他廊下等：年2回）
- ・布団丸洗い及び乾燥殺菌（丸洗い10月、乾燥4月）
- ・シーツ・ホーフの交換（月2回）
- ・居室内カーペット部分（汚損箇所）貼り替え（年1回）
- ・月例清掃（毎月～職員と利用者の協働清掃）
- ・館内除菌（新型コロナ、インフルエンザ、ノロウイルス対策）の実施（毎日～職員が実施）

<別表 1>

入所状況

(令和6年3月31日現在)

入退所状況調

(人)

月	R5.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R6.1	2	3	平均
月初措置人員数	79 (3)	79 (2)	77 (1)	78 (2)	78 (2)	78 (3)	78 (2)	78 (3)	77 (3)	75 (2)	76 (2)	75 (2)	77.3
自由契約者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計	79	79	77	78	78	78	78	78	77	75	76	75	77.3

※()はホームレス緊急入所による措置人員数を再掲

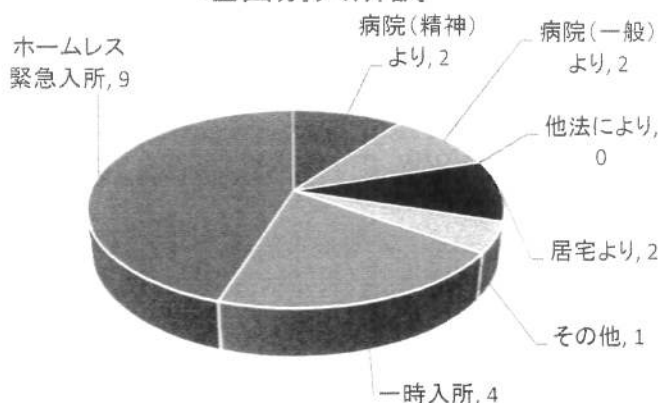
(人)

月	R5.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R6.1	2	3	合計
入院(精神)より	1									1			2
入院(一般)より			1								1		2
他法により													
居宅より			1									1	2
その他				1									1
一時入所(一般入所前の体験の入所は除く)	1				1	1			1				4
ホームレス緊急入所	1	1	1	1	2		1	2					9
合計	3	1	3	2	3	1	1	2	1	1	1	1	20

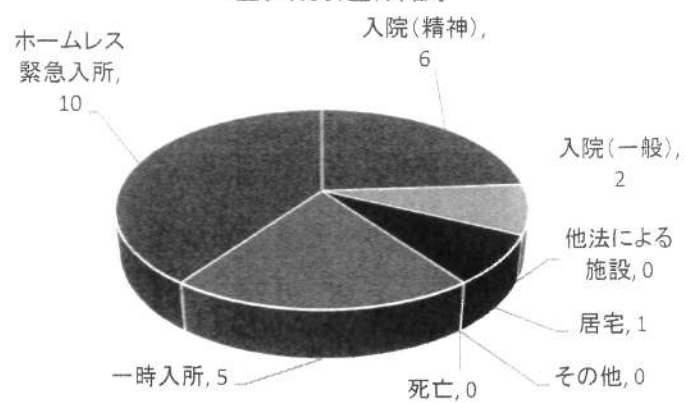
(人)

月	R5.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R6.1	2	3	合計
入院(精神)	1	1			1						2	1	6
入院(一般)								1	1				2
他法による施設													
居宅					1							1	2
死亡													
その他													
一時入所(一般入所前の体験の入所は除く)		1	1	1			1		1				5
ホームレス緊急入所	2	2		1	1	1	1	1	1				10
合計	3	4	1	2	3	1	2	2	3		2	2	25

理由別入所調



理由別退所調



年齢別調

(人)

年齢	20～29	30～39	40～49	50～59	60～64	65～69	70～74	75～79	80以上	合計
男		1		6	7	8	5	5	8	40
女			1	4	4	4	9	4	9	35
計		1	1	10	11	12	14	9	17	75

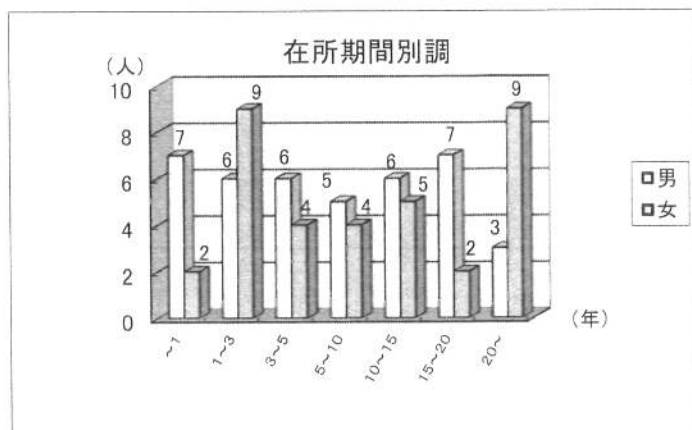
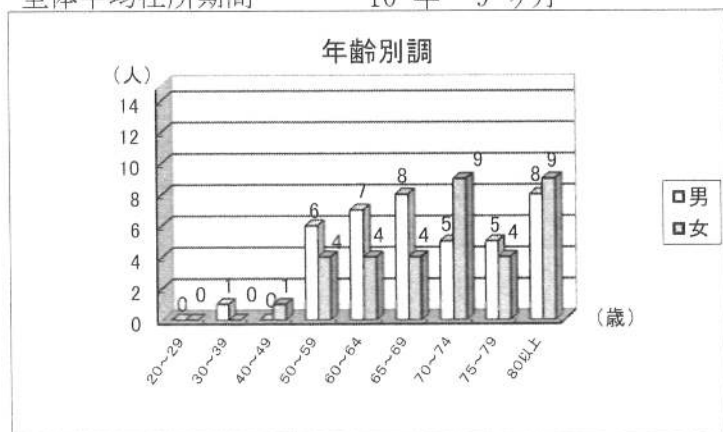
最少年齢 男子 34 歳 最高年齢 男子 85 歳 平均年齢 男子 69.0 歳
 女子 48 歳 女子 89 歳 女子 72.1 歳
 全体平均年齢 70.4 歳

在所期間別調

(人)

	1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上	合計
男	7	6	6	5	6	7	3	40
女	2	9	4	4	5	2	9	35
計	9	15	10	9	11	9	12	75

最短期間 男子 0 年 0 ヶ月 最長期間 男子 32 年 11 ヶ月
 女子 0 年 1 ヶ月 女子 36 年 8 ヶ月
 平均在所期間 男子 9 年 1 ヶ月
 女子 12 年 7 ヶ月
 全体平均在所期間 10 年 9 ヶ月

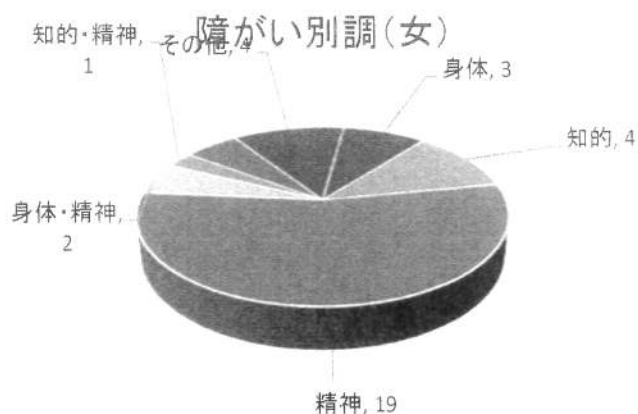
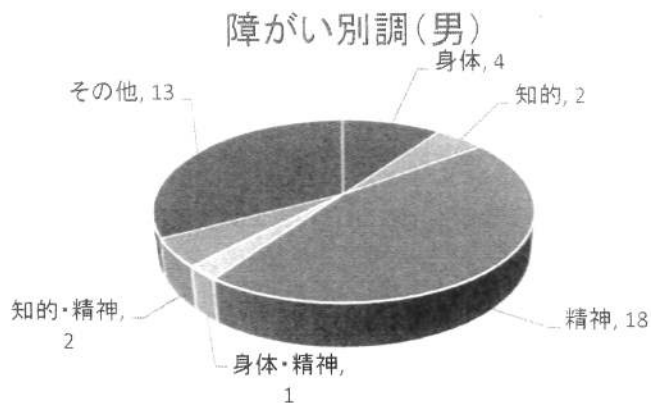


障がい別調

※判断は手帳の所持による

(人)

	身体	知的	精神	身体・知的	身体・精神	知的・精神	身体・知的・精神	その他	合計
男	4	2	18	0	1	2	0	13	40
女	3	4	19	0	2	1	2	4	35
計	7	6	37	0	3	3	2	17	75



障害者手帳保持調

(人)

身体障害者手帳	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級	合 計
男	1		1	2			4
女		1		1	1		3
計	1	1	1	3	1		7

精神障害者保健福祉手帳	1 級	2 級	3 級	合 計
男		16	2	18
女	1	16	2	19
計	2	32	4	37

療 育 手 帳	A	B	B-	合 計
男		2		2
女	2	2		4
計	2	4		6

ADL状況調

(人)

区 分		歩 行			食 事			排 泄			入 浴			着 衣			
		自 力 歩 行	補 助 具 使 用	車 椅子 使 用	歩 行 不 能	自 分 で 可 能	一 部 介 助	全 介 助	自 分 で 可 能	一 部 介 助	全 介 助	自 分 で 可 能	一 部 介 助	全 介 助	自 分 で 可 能	一 部 介 助	全 介 助
実 数		60	10	5	5	48	26	1	58	14	3	47	20	8	65	8	2

受給年金調

(人)

	国民年金				厚生年金			障基 老厚	その 他	合 計
	障害 基礎	老齢 基礎	障害 (旧法)	老齢 (旧法)	障害	老齢	遺族			
男	9	1				10			7	27
女	12	4	1			4	1		2	24
計	21	5	1			14	1		9	51

実施機関別入所人員調

(人)

各 市 別 人 員				各 振 興 局 別 人 員			
実 施 機 関 名	男	女	計	実 施 機 関 名	男	女	計
札 幌 市	25	25	50	空知総合振興局	2	1	3
名 寄 市		1	1	根 室 振 興 局	1		1
北 見 市	3		3	オホーツク総合振興局	2		2
三 笠 市	2	2	4	十勝総合振興局	1		1
根 室 市		1	1	後志総合振興局		1	1
北 広 島 市		1	1	岩 手 県	1		1
岩 見 沢 市	1	1	2				
砂 川 市	1		1				
登 別 市		1	1				
苫 小 牧 市		1	1	私 的 契 約			
石 狩 市	1		1				
小 計	33	33	66	小 計	7	2	9
				合 計	40	35	75

<別表2>

職 員 配 置 状 況

令和5年4月1日現在

職 種	施 設 長	事 務 員	主 任 指 導 員	指 導 員	介 護 職 員	介 助 員	看 護 師	栄 養 士	調 理 員 等	（ほ ー ス 巡 視 員 等 ） か	医 師	合 計
定 数	1	2	1		13	1	1	1	4(1)		(1)	24(2)
現 在 員	正規職員	1	2	1		15	1	2	1	4		27
	契約職員					1			5	6		12
	嘱 託										2	2